初年次教育における学修状況調査の活用

白鳥成彦（嘉悦大学）

１.はじめに

2012 年の中央教育審議会の答申の中で質の伴った学修時間の必要性について指摘されている。大学の授業においても事前の準備、授業の受講、事後の展開といったプロセスの中で全体的に十分な学修時間の確保が必要とされている。本発表では嘉悦大学における経営経済学部とビジネス創造学部における学修時間・学修行動・学習成果の調査を全学生対象に実施した調査について報告する。

２.嘉悦大学における初年次教育

嘉悦大学は東京都小平市に位置し，社会科学系の学部である経営経済学部・ビジネス創造学部（2012 年開設）のそれぞれ定員 200 名の 2 学部を持ち，全体でも定員 1,600 人の比較的小規模な大学である。校訓「怒るな働け」の精神のもとに創造的実学の教育を狙っている。

嘉悦大学において創造的実学を身につける中で、初年次教育は特に大きな意味を持っている。初年次教育とは大学１年生を対象に、高校までの受け身の学びから大学での主体的な学びへの移行が円滑に行われるように内容を工夫した教育プログラムのことである。嘉悦大学においては基礎ゼミナールを中心に、ICT 科目、語学科目等において初年次教育は構成されている。表 1 が基礎ゼミナールの 2015 年度の授業計画であり、コミュニケーション力とキャリアデザイン力の育成を中心に、キー・コンピテンシーの実践的な習得を狙いとしている。そのため、すべての回において講義のみというものは無く、学生が身につけたスキルを実際に試す、利用すること、そしてそれらのスキルセットを主体的に身に付けるように配慮されている。例えば、第 3 回、第 4 回で身につけた傾聴スキルや、ロジカルシンキングのスキルは授業の中においてもワークショップの中で身につけるが、同じスキルセットを第 5 回、第 6 回のビジネス実践（市場調査）の中で役立てるようになっている。このように嘉悦大学では初年次教育においてキー・コンピテンシーを主体的に、ビジネス現場の中で身につけられるように設定をしている。（河合塾 2010、白鳥 2016）

表１　2015 年度 ビジネス創造学部　基礎ゼミナール授業計画

第 1 回	オリエンテーション	ガイダンスと授業計画
第 2 回	ジェネリックスキル①	アセスメントの実施
第 3 回	傾聴・関係構築トレーニング	話を聞く態度と質問力
第 4 回	ロジカルシンキング	ロジックツリーとインタビュー
第 5 回	ビジネスの現場を見る①（平日課題調査）	物産展へのフィールドワーク
第 6 回	ビジネスの現場を見る②	調査報告
第 7 回	社会人・先輩トークライブ（土曜日開催）	OB による会社･学生生活プレゼン

第 8 回	ジェネリックスキル②	アセスメントのフィードバック
第 9 回	社会人 1 年目にむけ在学中の自分を考える	未来履歴書の実施
第 10 回	地域連携と大学（1）	商店街・地域の祭りについてのゲスト講義 商店街調査と，地域の祭り貢献へのワークショップ実施の 2 グループに分け PBL を実施
第 11 回	地域連携と大学（2）	
第 12 回	地域連携と大学（3）	
第 13 回	地域連携と大学（4）	
第 14 回	地域連携と大学（5）	
第 15 回	総括	まとめと秋学期の履修について

以上の通り、教員目線からはキー・コンピテンシーを主体的に、実践の中で身につけさせようとしているが実際に学生が受けてみての感想、その認識のずれ等があるかを本調査では明らかにする。

3.学習状況調査の概要

3-1. 調査の目的

「学生の主体的な学び」に向けての状況や学生の学修成果に関する状況を把握するため、経営経済学部・ビジネス創造学部学生の学修時間・学修行動とともに、どのような学修成果が得られているかを調査する

3-2. 調査項目

アメリカの NSSE（national survey of student engagement）を基に、学内で実施する他のアンケート等との設問の重複を加味して下記の 18 問の設問を用意した。主に主体的に学修ができたか、どのくらい学修したのか、どのくらい身についたのかを判断する設問を用意した。

設問 1：あなたは、授業内での質問等で議論に参加しましたか。
設問 2：あなたは、課題やレポートを提出する前に下書きや準備資料を作成しましたか。
設問 3：あなたは、他の学生と試験の準備、授業課題やプロジェクトのための作業を行いましたか。
設問 4：あなたは、他の学生に対して授業や課題を理解するための質問や相談をしましたか。
設問 5：あなたは、他の学生に対して授業や課題の説明をしましたか。
設問 6：あなたが、今学期に受講した授業内でプレゼンテーションを行ったり、他者の発表を聞く機会がありましたか。
設問 7：あなたは、授業後に自分のノートを見直したり、復習を行ったりしましたか。
設問 8：あなたは、授業や教材から学んだものを自分の理解を深めるためにまとめ直したりしましたか。
設問 9：あなたは、この 1 年間で授業の内容や課題に関連して、図書館で資料を調べたり、

インターネットを活用したことはありましたか。
設問 10：あなたは、授業の宿題や課題をやらずに、授業に参加したことがありますか。
設問 11：あなたは、1 週間の授業準備にどのくらい時間を費やしていますか。
設問 12：あなたは、この 1 年間で授業時間外に教職員に学修に関する相談をしたことはありましたか。
設問 13：あなたは、入学したときと比べて一般的な教養や専門的な知識・技術が身についたと思いますか。
設問 14：あなたは、入学したときと比べて他の人と協力して物事を進めていく力が身についたと思いますか。
設問 15：あなたは、入学したときと比べて学修した結果をまとめて発表する力が身についたと思いますか。
設問 16：あなたは、入学してから今までにあなた自身が学修した成果（結果）について満足していますか。
設問 17：自由記述欄

3-3. 実施期間・回答方法
実施期間：平成 26 年 8 月 25 日（月）～　9 月 15 日（月）
実施方法：研究会の授業時間中に Google フォームから回答

3-4. 集計結果

表 2　調査集計表

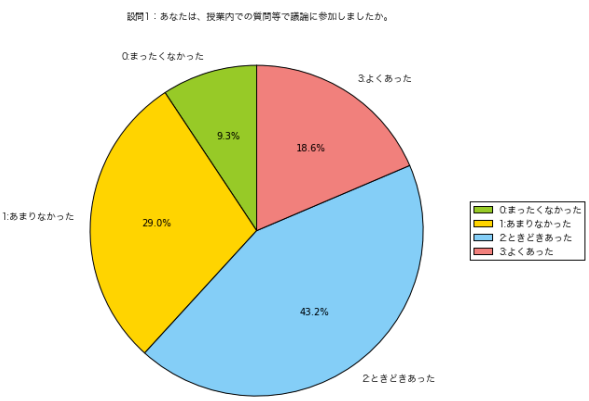
区　　分	数　　値
（A）対象学生数	1,257 人
（B）回答者数	347 人
（B/A）回答率	27.60%

４.結果

4-1. 主体的に学修できたのか？

設問 1：あなたは、授業内での質問等で議論に参加しましたか、と設問 6：あなたが、今学期に受講した授業内でプレゼンテーションを行ったり、他者の発表を聞く機会がありましたか、の 2 つの結果から授業内での学修を考察する。下記の図 1 は設問 1「あなたは、授業内での質問等で議論に参加しましたか」の結果である。この結果を見る通り、全体として 60%以上の学生が議論に参加したと述べており、過半数の学生は何かしら主体的に参加できている。図 2 は設問 6：「あなたが、今学期に受講した授業内でプレゼンテーションを行ったり、他者の発表を聞く機会がありましたか」の結果を表しており、ここでは発表等の機会は 70%以上あることが分かる。設問 1 と 6 の結果から分かるように、授業の中では主体的に学修が行われている事がわかる。ただ、上級生になるにつれて徐々に発表の機会は無くなることも同時に分かり、1 年生はあまり議論に参加しているとは言えないとい

うことも分かった。



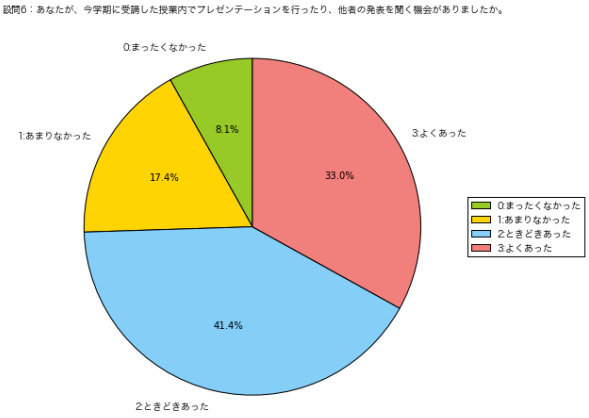


図 1. 右：設問 1 結果、図 2：左：設問 6 結果

また、授業内以外の項目として設問 2、7、8、10 の結果を用いて考えると事前準備、事前学修では下書きや準備資料は 70%弱の学生が作成している、授業の宿題、課題の達成は 50%以下であることが分かった。さらに事後学修としては復習やまとめ直しや 60%弱の学生は行っている事が分かった。

4-2. 学修時間について

4-1 からある程度主体的には学修が行われていると学生は認識していることが分かったが、時間・量を調べた。図 3 は 1 週間の授業準備時間であるが、70%以上の学生が 1 週間の授業準備時間が 1 時間未満であることが分かる。さらに、図 4 を見てみると学修時間と GPA には正の相関が見られそうである。

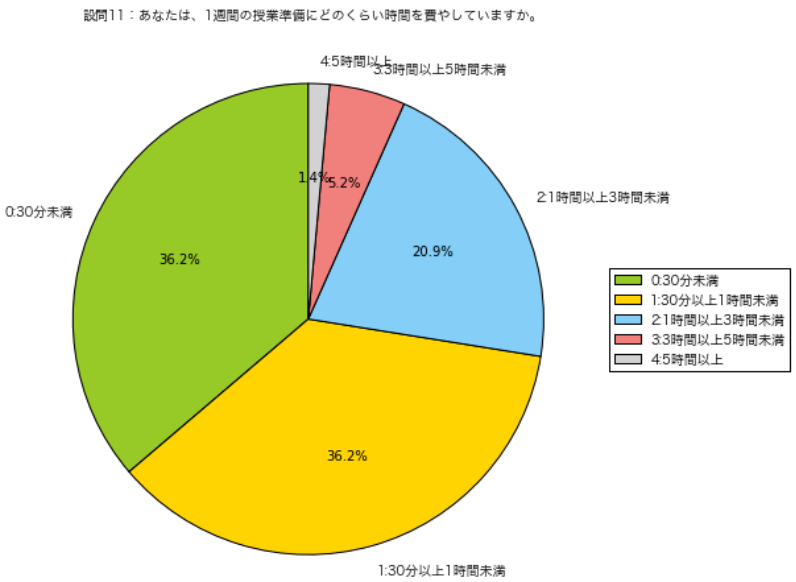


図 3：1 週間の授業準備時間

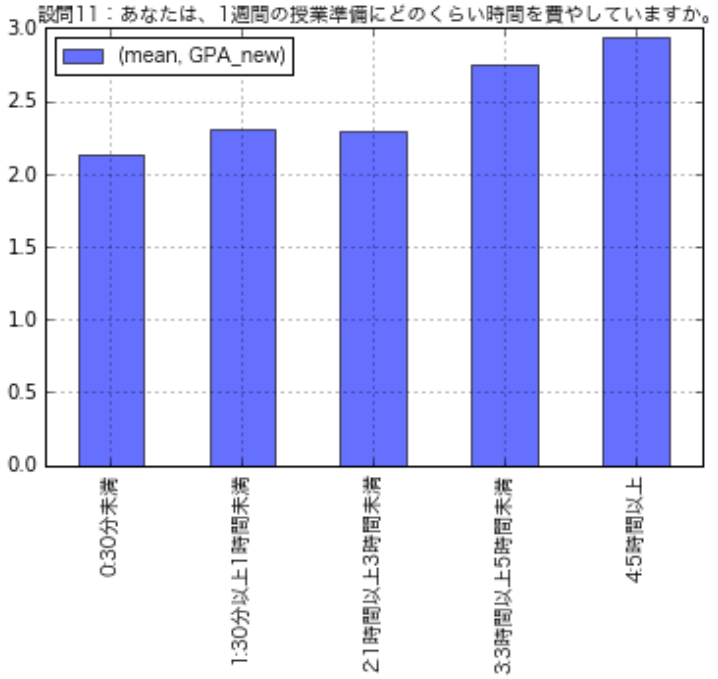


図 4. 学修時間と GPA の関係性

4-1、4-2 の結果から見ると、嘉悦大学においては主体的な学修行動の方向性はあっているが、学修時間が足りないことが分かった。特に初年次学生では授業外での学修時間の確保が他の学年より取れており、この１年生のモチベーションを維持することが大切である。2 年生以降はより授業自体をアクティブにすることが求められており、専門科目でのアクティブ・ラーニング化が求められる。下記が嘉悦大学初年次科目への示唆としてまとめたものである。

・初年次教育の方向性は理解されており、教員と学生の認識の差は離れていない
・学修時間の確保が求められており、授業外の課題、宿題をしっかりと出していく
・学修時間と成績には正の影響が出ている

5. 今後の展開

今後はデータを経年的に取り、この結果が授業構成に活かされているのかを確認するとともに、他部署、教務データ、学生データ、キャリアデータとの統合を行い、全体的な教学 IR へと展開することが求められている。

6. 参考文献

1) 河合塾, “大学の初年次教育調査　－嘉悦大学「実践→認識→学習」の流れで学習意欲を向上させ「未来履歴書」で自分の未来を描く－”, Kawaijuku Report, p.28-29, 2010.

2) 白鳥成彦, 田尻慎太郎, “在学中キャリアを意識した初年次教育”, ECO-FORUM, Vol.31 No.2,P.35-41, 2016.

なお、本研究は本研究は文科省 科研費 15K04380「大学における中退防止を目的とした教育サービス評価モデルの提案」の助成を受けたものです